

社会福祉法人 栃木老人ホーム

養護老人ホーム あずさの里 整備方針

（令和3年3月18日 理事会承認）

（令和3年6月22日 一部改正）

1 背 景

栃木老人ホームあずさの里は、明治34年当時、篤志家の「平岩幸吉氏」と趣旨に賛同した婦人有志の方々が、栃木市沼和田町地内において、生活に困窮した高齢者や障がい者を救済したことに始まり、これまでに120年間に亘り、栃木県南地域の高齢者福祉を支えてきた歴史と伝統がある。

現在の栃木老人ホームの建物は、昭和47年に、栃木市梓町に新築移転して以来、築49年を経過し老朽化が著しことから、利用者の生活環境が悪化し、プライバシーの確保も困難な状況にあり、施設管理においても支障を来たしている。

近年、超高齢社会が急速に進展する中で、栃木老人ホームは、養護老人ホームとして、生活困窮・認知症・障がい（身体・知的・精神）・虐待・DV・触法など、多様な生活課題を抱え支援を必要としている高齢者の最後の砦としてのセーフティーネットの重要な役割を果たしている。

しかしながら、国が、平成17年度から、養護老人ホームの措置費に係わる国庫負担金を一般財源化（地方交付税化）したことにとともに、いわゆる行政の「措置控え」が全国的に進行し、栃木老人ホームにおいても、入所者定員が100名のところ、令和元年6月には68名まで減少するなど、危機的な経営状況となった。

その後、関係自治体・関係機関への積極的な要望活動を展開するとともに、令和元年10月から、「契約入所制度」を導入することができたことにより、令和3年5月末現在、入所者数が100名（うち契約入所者19名）と入所者の増加につながっているが、養護老人ホームだけで、将来に亘って、常時、安定した利用者を確保できるか懸念されるところである。

2 整備方針

利用者数の減少に伴い、平成30年度から、栃木市の関係職員の意見等も踏まえ、栃木老人ホームのあり方を検討し、令和元年6月理事会において、施設の建替えに当たっては、栃木老人ホームの経営の安定化に資し、養護老人ホームを将来に亘って持続可能なものとするため、養護老人ホームに特別養護老人ホームを併設し、高齢者の総合的な福祉施設として整備することとし、特別養護老人ホームの最期の整備期間と思われる第8期栃木市高齢者保健福祉計画期間内（令和3年度～5年度）での整備を目指すこととした。

これまでの検討経過を踏まえ、施設の建替えを具現化するため、栃木老人ホーム“あずさの里”の整備方針を策定する。

3 施設の種別及び規模

老朽化した栃木老人ホームの建替えについては、法人経営の安定化を図り、養護老人ホームを将来に亘って持続可能なものとするため、養護老人ホーム（定員１００名）に地域密着型特別養護老人ホーム（定員２９名）を併設し、高齢者の総合的な福祉施設として、一体的な施設（複合施設）を整備する。

（１） 養護老人ホーム

令和３年５月末日現在における入所者数は、１００名（契約入所者１９名）で、１００名の定員を満たしており、また、これまで実績のなかった小山市から令和２年度になってから５名の措置入所があり、小山市とのつながりができるとともに、今後も契約入所（定員２０名）の要望が高いと見込まれることから、養護老人ホームの定員については、現状の１００名を維持する。

（２） 地域密着型特別養護老人ホーム

法人経営の安定化を図るため、養護老人ホームに併設する特別養護老人ホームについては、施設の建替えに当たり、支援を要請している栃木市との連携強化を図るとともに、適正規模と思われる定員２９名の地域密着型特別養護老人ホーム（栃木市民が入所対象）とする。

4 整備スケジュール

地域密着型特別養護老人ホームを整備するためには、令和２年度に策定される第８期栃木市高齢者保健福祉計画に位置付けされ、計画の期間である令和３年度～令和５年度中に、栃木市の公募において事業採択を得て施設整備を行う必要があるため、事業スケジュールの概要は下記のとおりで、詳細については、別添のとおりとする。

- 基本計画策定・基本設計業務
（令和３年８月～令和４年８月 予定）
- 実施設計業務
（令和４年９月～令和５年６月 予定）
- 整備工事
（令和５年７月～令和６年１０月 予定）

5 事業費

総事業費については、基本計画策定において、具体的な数値を算定することになるが、現時点において、借入金償還が後年度の施設経営を圧迫しないよう、可能な限り総事業費の抑制に努めることとし、公平公正な一般競争入札残も見込み13億5千万円とする。

(1) 事業費 1,350,000千円

① 設計費 52,580千円

○基本計画策定・基本設計業務、○実施設計業務、○工事管理業務
47,800千円×1.1=52,580千円

② 工事費 1,157,420千円

1,052,200千円×1.1=1,157,420千円

③ 備品購入費 88,000千円

80,000千円×1.1=88,000千円

④ 用地購入費 33,000千円

○用地費30,000千円、○諸経費 3,000千円

⑤ 予備費 19,000千円

(2) 財 源

① 自己資金 350,000千円

※令和2年度末積立資産額 349,143千円
令和5年度末積立資産見込額 380,000千円

② 県補助金 447,830千円

○養護老人ホーム 100名×3,240千円=324,000千円
○特別養護老人ホーム 29名×4,270千円=123,830千円

③ 市補助金（新規の要望額） 100,000千円

④ その他の補助金 69,320千円

○「とちぎのいい木」補助金 10,000千円
○ガス集合装置補助金 15,000千円
○施設開設準備補助金 18,000千円
○簡易陰圧装置補助金 4,320千円
○備品購入費補助金 22,000千円

⑤ 福祉機構借入金 382,850千円

(3) 借入金の償還

○償還方法 元金均等
○償還期間 30年（元金3年据置）
○年間償還金（4年目以降 令和8年度から）

17,512千円

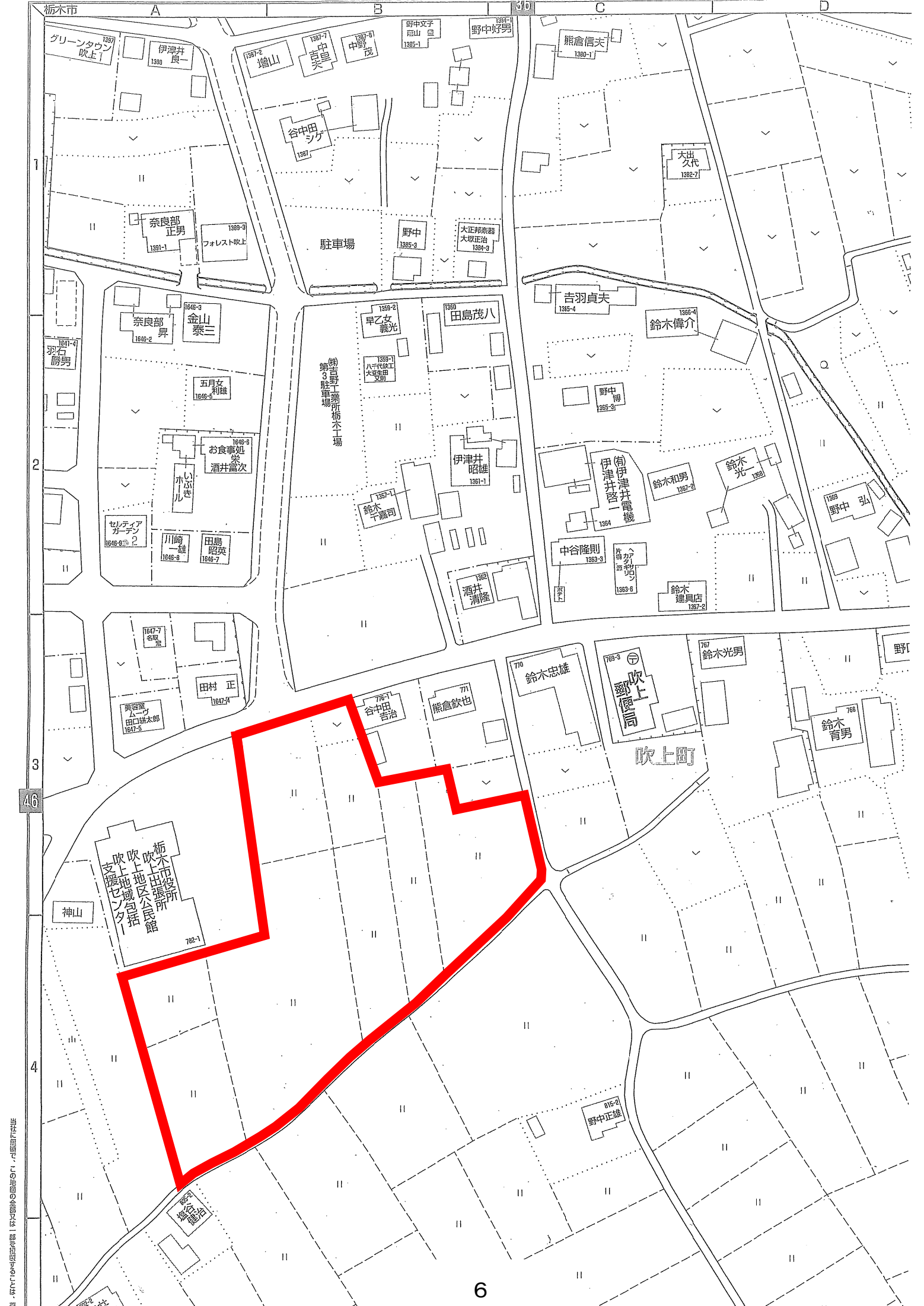
6 整備用地

災害の心配がなく、地域の高齢者と交流することができ、吹上地域包括支援センターと連携しながら、**高齢者福祉の拠点施設**として、吹上地区公民館周辺に、約10,000㎡の移転用地を確保する。

- (1) 吹上地域包括支援センターと連携しながら、高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる**※地域包括ケアシステムの拠点施設**とする。
※ 高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制
- (2) 吹上地域包括支援センターやボランティア団体と連携して、オレンジカフェを開設し、**認知症対策の拠点施設**とする。
※ 認知症の方やその家族、地域の方や専門家などが、自由に参加・交流できる集いの場
- (3) 吹上地区公民館の生涯学習機能との連携や**※地域の自治会や老人クラブ**との交流を通して、**高齢者生きがいづくりの拠点施設**とする。
※ 花まつり、夏祭り、運動会、ボランティア団体の慰問、オレンジカフェ等
- (4) 大規模災害における地域の避難所、特に、**※福祉避難所**としての役割を果たす。
※ 災害時に体育館など一般の避難所での避難生活が困難な高齢者や障がいのある人など、特別な配慮を必要とする人が、安心して避難できるように開設される避難所です。

栃木老人ホーム“あずさの里”施設整備スケジュール

年(令和)	月	事 務 事 業 内 容	
3	3	・整備方針の変更 (用地、スケジュール、事業費等)	・用地選定（権利調査・用地交渉・売 渡確約書締結） ・現況測量 ・相続登記、抵当権抹消登記
	4	・設計事業者選定プロポーザル実施要 領等制定	
	5		
	6	・プロポーザル募集期間	
	7	・プロポーザル審査会	
	8	・基本計画策定・基本設計業務委託契 約締結 ・基本計画策定・基本設計 (基本計画の検討、関連施設の視 察、資料収集) ・建設計画概要決定	・土地売買契約の締結 ・手付金の支払い ・土地境界確認、境界協定、測量 ・農振農用地除外申請
	9		
	10		・地元説明会
	11		
	12		
4	1	(施設種別、立地、図面、資金計画)	
	2	・担当者選任	
	3	(建設担当、資金調達・経理担当、許 認可担当、総括)	
	4	・市公募書類作成、説明準備	
	5		
	6		・福祉医療機構(事前打合せ)
	7		
	8	・市公募応募	
	9	・実施設計業務委託契約締結 ・施設整備概要書提出(県)	・農地転用許可申請 ・開発行為事前協議 ・大規模開発申請
	10	・福祉医療機構(借入事前相談)	
	11	・実施協議資料提出(県)	
	12		
5	1		
	2		
	3	・県法人施設審査委員会	・土地引き渡し、所有権移転登記
	4	・福祉医療機構(借入申込書提出)	・土地代金残金の支払い
	5		
	6	・建築工事現場説明会 ・建築工事入札 ・工事請負契約締結	・設計監理委託契約締結 ・実施設計承認
	7	・建築確認申請 ・工事着工	・補助金交付申請・交付決定
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
6	1	・建築工事	・備品検討
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		・設備備品入札 ・備品購入契約締結
	7		
	8		
	9		
	10	・工事竣工 ・建物引き渡し ・設備備品納入	・諸官公庁竣工検査 (建築確認・消防署・保健所) ・完成検査(補助金)



Copyright © 2017 by Aomori City. All rights reserved.